

IONIC ウォーターセーフティブーツ の使用後の評価



執筆者

平井 琢（ひらい たく）

アムスハウス&フレンズ※ 代表

※ラフティングやパックラフトなどのリバーツアーガイド会社。埼玉県秩父郡長瀬町。

経歴

1975年生まれ 東京都出身

ラフティング協会公認マスターガイド（国内6名）。

急流救助のスペシャリストとして、レスキュー3ジャパンのインストラクターも務める。

はじめに

マリンスーツとウォーターセーフティブーツを両方使用して比較した結果、ウォーターセーフティブーツの特長は、以下の点が挙げられます。

- 安全
- 排水性
- ソールのグリップ性
- 脱着の容易さ
- ドライスーツとの相性

安全性

ポリウレタン製の保護ガードがつま先に入ったウォーターセーフティブーツは、足をしっかりと守ってくれると感じます。川の中での作業中、岩に足をぶつけることや岩の間に挟まることがよくありますが、このシューズによって足の安全を確保できそうです。マリンスーツだと柔軟性が高いため、逆に岩の隙間に足が入り、つま先を痛めることもあります。水中でも安心して動けることは、救助活動において大変重要です。



排水性

排水性の高い設計は、水中での作業を効率的かつ快適に行えるように考慮されていると感じます。水がブーツ内に溜まることなく、足が湿った状態での時間が短いため、寒冷な水域でも足の冷えを軽減できます。長時間の作業において、足の快適さを保つことは、重要なポイントです。インナーにはネオプレンのソックスを履くと保温性が高まり、また環境によっては砂の侵入を防いでブーツ内の接触皮膚炎の軽減や、洪水等での感染対策にも貢献します。1年を通して履くことを強く推奨します。



靴底（ソール）のグリップ性

川の中や岩の上でも滑りにくいことは、安全に行動するための基本です。ウォーターセーフティブーツのソールは、ヴィブラム®という信頼性の高いブランドのもので、悪条件下でもしっかりとグリップ性を保ってくれます。急流や滑りやすい地形での作業において、足元が安定して支えられていると感じます。コケ等がある場所での転倒防止には、フェルトソールが効果を発揮しますが、消耗の激しさやボートデッキとの相性の悪さといった側面があります。そのため、活動する環境への対応を総合的に考えると、ヴィブラム®製ソールの方が有効と言えそうです。



脱着の容易さ

装着後の固定システムが靴紐ではなく、BOA®システムである点は、効率性の向上に一役買っています。急いでいる時、手袋をしている時でもブーツを着用後、簡単にダイヤルを締めて固定できるため、すぐに作業を開始できます。時間と正確性が求められるレスキュー活動において、このようなディテールが役に立ちます。

BOA®システムの使用時の注意点は、河川内を歩行しているときに石などに接触し、ロックが開放されて緩む可能性があります。その際は、手のひらでパンッと押し込み、ダイヤルを回転すれば容易に締め込みができます。



ドライスーツとの併用

ドライスーツとの相性は非常に良いと感じます。特にソックスタイプのドライスーツ（足首までのタイプのものもある）では、ウォーターセーフティブーツを履くと、余計な準備が少なく、迅速に救助活動に移れます。

寒冷な水域での活動においてはドライスーツとウォーターセーフティブーツの組み合わせが大きな効力を発揮してくれることでしょう。





ファーノ・ジャパン・インク
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル4F
TEL03-5820-4649 FAX03-5820-4669
www.ferno-jp.com

